

2012 in Tohoku

日 時

平成24年10月27日(土) 13:00~18:00

10月28日(日) 10:00~15:30

会 場

アークホテル仙台

仙台市青葉区大町2-2-10(青葉通り)

TEL.022-264-2274

後援:宮城県教育委員会/仙台市教育委員会

社団法人仙台ユネスコ協会

協賛:日本交流分析学会/社団法人日本産業カウンセラー協会

特定非営利活動法人日本家族カウンセリング協会

花巻ユネスコ協会/アカデミアTA

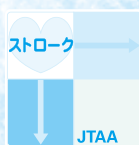
日本ゲシュタルト療学会

第35回 全国年次大会(東北)

心の復興と交流分析



Sendai



特定非営利活動法人

日本交流分析協会

NPO Japan Transactional Analysis Association

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19-21-3F

TEL.03-5282-1565 FAX.03-5282-1566

東北支部

〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2-1-20 桜井コーポ206

TEL/FAX 022-355-7810

第35回全国年次大会開催にあたって



心の復興に尽くす交流分析の役割

特定非営利活動法人日本交流分析協会
理事長 飯田 國彦

東日本大震災で今尚多くの人々が苦難の生活を強いられています。復興には長期に亘る支援が不可欠です。中でも「心の復興」が喫緊の課題となっています。心の復興は大震災前の「幸福度」のレベルに戻ることではなく、日本人の「豊かな心」を取り戻すことです。

「心の復興」には、人を全人的に理解して受け容れる「人間性心理学」の知見の活用が肝要です。フランクフルトは、「人は、いかなる状況下でも、生きる意味を持っている」として「実存分析」を提唱しました。「交流分析」(TA) も人間性心理学の範疇に入る「心理療法」です。TAには、「成人A」の気づきによって心の問題を解決する方法があります。近年「子どもC」の混乱からの解放によって、本質的改善を目指す「関係性交流分析」が提唱され、TAは一段と進化して役割は広がりました。

ご当地、仙台は世界に於ける「民間ユネスコ運動」の発祥の地です。「人の心の中に平和の砦を築かなければならない」「それは人々の連帯の上に築かれなければならない」は有名なユネスコ憲章の1節です。また東北は日本人の「豊かな心」を説いた「宮沢賢治」の生誕の地でもあります。それらはTAの哲学の「自他肯定」およびゴールの「親密の獲得」に通底する精神です。

このような東北に、盛岡・仙台をはじめとする会員諸氏のご尽力によって、「東北支部」が設立できたことにお礼を申し上げます。第35回全国年次大会が素晴らしい諸先生をお迎えして、東北で開催出来ますことに深い意義を感じます。

ご参会の皆様方のご健康と「心の復興支援」「募金活動」の継続をお願いして開会の挨拶とします。



東北での年次大会によろこ

第35回年次大会実行委員長
副理事長 小川 正治

私たちは、東日本大震災の被災体験を風化させてはなりません。大津波に急襲されて命を奪われ、あるいは家を流され、恐怖に逃げ惑った東北沿岸の人々。原発事故の避難命令で、我が家や故郷を追われた地域の方々。大震災は、これら膨大な犠牲者と被災者を生じたわけではありません。私たちすべての日本人が物心ともに「被災」したことを忘れてはなりません。多くの国民が東北被災者の受難を我がこととして受け止め、等しく涙を流しました。不眠不休で救援、復旧、支援に当たってくれた警察や消防、そして自衛隊、医療関係者、ボランティアに対して、全国民が感動し感謝しました。マスク効果もあって、社会に横溢した「同胞互助」の集団心情は、節電・節約・脱贅沢、そして「清貧の価値観」こそが潔し、とする風潮をも生じた感がありました。

でも、1年1年と歳月が進むにつれて大震災への関心・記憶が薄れていくように思えます。しかし、一方では被災者が負った心のマイナス影響を、自らが復元に導き、あるいは相手理解を体現して心の平衡化を支援できる「交流分析」の社会的意義が増しています。その意味で『心の復興支援』は、ここ東北の地における交流分析実践の重要な行動課題なのです。全国会員の皆様、被災地東北での第35回年次大会によろこそお出かけくださいました。心から歓迎します。

大会日程

1日目 10月27日(土)

時 間	内 容	講 師 名
12:00～	受付開始	
13:00～	開会式(理事長挨拶、大会実行委員長挨拶)	
13:30～14:00	講演1 復興の未来へ <small>あす</small> 希望の前進	宮本静子先生 名取市立関上中学校教諭 <small>ゆりあげ</small>
14:00～16:00	講演2 絆の力	堀田力先生 さわやか福祉財団理事長
16:15～17:00	東北支部会員 体験を語る 「TAに支えられて」 コーディネーター 下平久美子 交流分析士教授	東北支部: 堀内真理子 立花 涼子 佐々木康太郎

17:00～18:00 「心の復興ストローク」の入選発表 ほか

18:00～19:30 交流会

2日目 10月28日(日)

時 間	内 容	講 師 名
10:00～11:45	交流分析講演 心の復興と支援活動	江花昭一先生 神奈川大学特別教授
13:00～14:45	交流分析講演 あなたのための関係性交流分析入門	杉田峰康先生 日本交流分析学会理事長
15:00～15:30	閉会式	

【オプション】震災復興支援観光プランがあります。P6をご参照ください。

1日目 講演



あす 復興の未来へ 希望の前進

ゆりあげ
名取市立閑上中学校教諭 宮本 静子 先生

東日本大震災があった日は卒業式。式後の謝恩会を終えようとしたとき巨大地震と津波が地域を襲った。勤務校は甚大な被害に遭い、尊い生徒の命も犠牲となった。あの日から1年半。仮設住宅などで未だ復興とはほど遠い日々をおくる人々が多い。そんな中、勤務する中学校の生徒達は、間借りしている小学校の校舎で学校生活をスタート。そんな生徒達に日本中、世界から数々の支援やメッセージが送られている。その真心に感謝し、仲間との絆を深め、被災前と同じ笑顔で今日を精一杯生きる生徒達。街の再生を願い、復興プランをジオラマで表現するなど、こどもの目線で「自分達に今できること」を真剣に考えている。そんな子供たちが見つめている先は、確かな復興の未来である。

●プロフィール

仙台市生まれ 創価大学文学部社会学科 宮城教育大学大学院教育学研究科卒業 日本道路公団関連企業などの勤務を経て、平成4年より塩竈市立塩竈第一中学校 岩沼市立岩沼西中学校 亘理町立逢隈中学校 現在、名取市立閑上中学校(今年度は教務主任)在職中 教員歴20年。日本社会科教育学会会員 日本地理教育学会会員 全国地理教育学会会員



絆の力

公益財団法人さわやか福祉財団理事長 堀田 力 先生

メッセージ

希望が持てなければ、復興への力は生まれない。どんな町に復興し、そこでどのように暮らして幸せな人生を全うするのか。そのことを仲間と語り合おう。そして、自分の夢の実現に向けて、仲間と共に挑戦しよう。次から次へと厳しい障害が現れてくるが、仲間と共に夢を追っている間は、心は折れない。

こわいのは、夢を諦める時である。その時に、生きる力が、身体から一挙に流れ出て、人生は、空っぽになってしまう。

講演要旨

検事を辞めて以来20年間、私は「新しいふれあい社会の創造」という夢を追って、さわやか福祉財団の仲間たちと挑戦を続けてきた。東日本大震災発生以降、「地域包括ケアの町」への復興応援団として、応援活動を続けてきている。被災地の皆さんが絆と夢の力によって、どのように活力を取り戻されたかを語ります。

●プロフィール

1934年4月12日 京都府生まれ。京都大学法学部卒。1961年に検事に任官。東京地検特捜部ではロッキード事件の捜査を担当。甲府地検検事正、法務省官房長などを経て、1991年に退官、弁護士となる。同年、さわやか福祉推進センターを開設。現在、公益財団法人さわやか福祉財団理事長。著書(抜粋)に、「否認」「壁を破って進め」(講談社文庫)、『人間力』の育て方(集英社新書)、『挑戦!』(東京新聞出版局)、『第二の人生、勝負の時である。』(海竜社)等多数。



心の復興と支援活動

神奈川大学特別教授(学校医、心療内科医) 江花 昭一 先生

東日本大震災による被害は、社会的、経済的なものだけではなく、自然が全面的な依存対象でなく、ふるさとも永遠でなく、人間関係も永続しないという事態に直面し、多くの人が喪失感を抱えた。

自然への不信を乗り越え、どうつき合うのか。ふるさとの喪失や分断を乗り越え、どう回復するのか。人と人とのふれあいをどう取り戻すのか。心の復興では、これらが課題になっている。

幸い、日本国内外から被災地支援の声が上がった。私が所属する心療内科系の学会、神奈川大学もそれぞれ支援に取り組んだが、その中で「支援は一方通行のものではない」ことが確かめられている。支援者も、自然との付き合い、ふるさとの回復、ふれあいの大切さにあらためて気づくことができたのである。

講演では、交流分析理論により、このような支援活動のあり方への理解を深めていきたいと考える。

●プロフィール

福島県喜多方市生まれ 医学博士 神奈川大学特別教授 1981年東北大学医学部卒業。日本大学第一内科助手、東松山市立市民病院内科医長、横浜労災病院心療内科医長、同副部長を経て2001年から同部長。2011年から現職。役職は、日本心身医学会理事、日本心療内科学会理事、日本交流分析学会理事、日本自律訓練学会理事など。資格は、日本心身医学会専門医、日本心療内科学会専門医、日本交流分析学会認定スーパーバイザーなど。



あなたのための関係性交流分析入門

日本交流分析学会理事長 杉田 峰康先生

今日、TAの世界に変化が起きています。従来のTAは自我を強め、健康な自我の活用を目標として発展してきました。皆様が学んだ「**①**の汚染」を解除する方法です。しかし最近、夫婦間のDV、親子間の殺人、幼児虐待、引きこもり等々、人間関係の基礎工事に問題のある人が増えています。これを**①**よりも「**③**の混乱」としてとらえ、その予防と対応のために開発されたのが関係性交流分析です。この新たなTAは乳幼児心理や無意識を扱うため、「難解で手が出ない」という声が聞かれますが、実は私たち日本人にとっては親しみやすい「甘え」を扱う治療法なのです。今回はご自分の**③**の自我状態をもう少し深く探索してみようというお気持ちで、お聞きいただければ幸いです。

●プロフィール

東京に生まれる 東京在住 1958年米国ルーテル大学卒業(キリスト教学) 1960年米国コンコルディア大学卒業(心理学) 1962年米国イリノイ大学大学院修了(心理学・カウンセリング・ケースワーク) 1971年九州大学医学部講師 1983年活水女子大学教授 1997年福岡県立大学・大学院研究科教授(臨床心理学) 現在福岡県立大学名誉教授 日本交流分析学会理事長。

復興支援で感じたストロークの力

私は今年の3月まで、岩手県沿岸の町にある公立中学校に勤務していました。海岸からは10kmほど内側に入った山あいには校舎があるため、津波の被害は免れましたが、津波で親を亡くした生徒がいたり、となりの被災した学校を受け入れたり、すぐ近くで自衛隊のキャンプが張られていたり、東日本大震災を肌で感じた日々でした。受け持った学年は3年生。その生徒たちと「命・生きる・絆」ということについて、深く考える機会となりました。そんな中、生徒たちからでてきた言葉は「ふるさとを大切にしたい」「今も苦しんでいる人たちの力になりたい」というものでした。

ふるさとのために、今も苦しむ人たちのために、直接の被災を免れた自分達ができることは何なのだろうか…考えた末の活動が、修学旅行(東京)で自分達が作った地元の物産を販売し、その収益金を全額寄付するというものでした。東京でたくさん頂いたストロークのシャワー…それは、生徒たちの一生の宝物となりました。今も彼らは、支えて下さった皆様に感謝をし、前を向き歩いています。「ストローク」は、感動を呼び、生きる勇気まで授けてくれることを再認識させられた体験でした。

交流分析士インストラクター 堀内 真理子



交流分析を学んだおかげで…

2011年3月11日宮城県石巻市で被災して命からがら逃げて助かることができました。人の命は紙一重とは…。不安な一夜を車の中で過ごして、次の日友人宅に毛布を借りに行き、そのまま8世帯大人13名子供2名の共同生活が始まり色々大変でしたが、ルールを作り、なんとか乗り切りました。その中で交流分析を学んでいたおかげでとても役に立ちました。どのようにして私は元気をとりもどしたか。そんな実体験をお話します。又、今後日本全国どこでおこるか分からない震災に備えて、私からのメッセージをお伝えします。

交流分析士インストラクター 立花 涼子

大震災における気づきと学び

今回の震災は甚大な被害をもたらした事は述べるまでもありませんが、その中で自分の故郷・家族・友人・地域の人たちに対する思いを改めて感じることができましたし、私のみならず、この震災にあった全ての方が重く感じられたのではないのでしょうか。また、この震災により、多くの人達と勇気付けたり、勇気づけられたり、励ましたり、励まされたり、ストローク交換できた点は、まだまだ震災の爪あとが残っている中で、復興に向かっていく糧になることと思っております。

「過去と他人は変えられない、変えられるのは未来と自分」。震災により甚大な被害をもたらされたという事実はもう消し去ることはできません。事実を受け止め、今何をすべきかを考え、行動する「考動」が大事であり、交流分析に寄り添うことができた私は、微力ながら復興に向け地域の中で力になって参りたいと思います。(会員活動報告集【平成23年度版】から抜粋)

交流分析士1級 佐々木 康太郎



震災復興支援観光のご案内

※トップツアー(株)の募集型企画旅行です

日帰りプラン 東松島復興状況視察と松島観光

10月29日(月) 最少催行人員:20名(募集人員40名) 旅行代金:お一人様¥11,000

【旅程】

アークホテル仙台(8:00発)⇒東松島市〈復興状況視察〉(9:30~12:00)⇒松島(昼食・買い物・瑞巖寺・五大堂)……松島港(15:00発)~~松島遊覧船~~塩釜港(15:50)⇒仙台駅(17:00着)

※添乗員が同行してご案内いたします。

※【旅行代金に含まれるもの】:貸切バス代(ガイド費用・乗務員諸経費)／昼食代1回／入場拝観料／乗船料／有料道路料／駐車料
／添乗員費用・東松島ボランティアガイド費用・松島専門ガイド費用／各サービス料・諸税

※【旅行代金に含まれないもの】:上記以外の費用(個人的な費用・飲物代など)

1泊2日プラン 志戸平温泉と世界遺産平泉・厳美渓2日間

10月28日(日)~10月29日(月) 最少催行人員:20名 旅行代金:お一人様¥30,000

【旅程】

1日目:アークホテル仙台(16:00発)⇒志戸平温泉(18:00着)

ご宿泊:湯の杜ホテル志戸平 ※宿泊は定員(5名以上)での相部屋となります。

2日目:志戸平温泉(8:30発)⇒平泉<毛越寺・中尊寺>※専門ガイドがご案内(9:15~12:15)⇒昼食(12:30~13:30)⇒厳美渓・買物(14:00~14:45)⇒一ノ関駅(15:15着)⇒仙台駅(17:00着)

※添乗員が同行してご案内いたします。

※【旅行代金に含まれるもの】:貸切バス代(ガイド費用・乗務員諸経費)／宿泊代(1泊夕食・朝食付)／昼食代1回／入場拝観料／有料道路代／駐車料／添乗員費用・平泉専門ガイド費用／各サービス料・諸税

※【旅行代金に含まれないもの】:上記以外の費用(個人的な費用・飲物代など)

年次大会参加・交流会申込及び宿泊に関わる事務手続きは、トップツアー(株)仙台支店に委託しています。

旅行条件(宿泊・エクスカーション)

※詳しい旅行条件を説明した書面をお渡ししておりますので、事前にご確認の上、お申込ください。

※ご契約成立以降に申込を解除される場合は、右表の取消料を申し受けます。又、ご宿泊 当日18時までに当支店又は宿泊施設に取消のご連絡が無い場合は、無連絡不参加として100%の取消料を申し受けます。

※旅行業務取扱管理者とはお客様の旅行を取り扱う営業所での取引の責任者です。このご旅行に関し、ご不明な点がございましたら、ご遠慮なく右に記載の旅行業務取扱管理者にお尋ね下さい。

旅行開始日の前日から起算してさかのぼって20日目

(日帰り旅行は10日目に当たる日)以降の取消…旅行代金の20%

旅行開始日の前日から起算してさかのぼって7日目以降の取消…旅行代金の30%

旅行開始日の前日の取消…旅行代金の40%

旅行開始日当日の取消…旅行代金の50%

旅行開始後の解除又は無連絡不参加の場合…旅行代金の全額

＜申込に関するお問合せ先＞

旅行企画・実施 **トップツアー株式会社 仙台支店**

観光庁長官登録旅行業第38号 JATA正会員 ボンド保証会員

総合旅行業務取扱管理者:佐竹 晃

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央1-6-13 日石仙台ビル3階

営業時間 月~金 09:20~18:00 土09:20~12:40 日祝日は休

TEL:022-263-3232 / FAX:022-265-5765

担当:佐々木孝哉、鈴木 東北12048

旅行業公正取引
協議会 会員



東北、まるごと全部が博覧会場!

復興の光が照らす、東北の新しい旅へ!

2011年3月、私たちは東日本大震災という大きな試練に見舞われました。尊い多くの命が失われ、生活の基盤は激しく揺さぶられました。しかしその中であって、東北の人々のふるさとを愛する姿、互いに助け合う温かさが、全国に、世界に、共感と支援の輪を広げたこともまた事実です。

東北には今もなお、日本人の原点とも言うべき精神が生きています。しかも、日本の原風景とも言うべき、美しい山河の中に。明治の時代に日本を旅したイギリス人女性イザベラ・バードは、東北の美しさに驚嘆し、その紀行文で東北を「東洋のアルカディア(理想郷)」と讃え記しました。国境をも越

えて響く、その美しい東北の風土の中に、私たちは今「絆」という言葉を、「ふれあい」という言葉を、あらためて見出しています。多くの人に、東北の、美しい風景と心に触れてほしい。縄文の時代から脈々と続く、東北の魂に触れてほしい。そんな願いを込めて、『東北観光博』を開幕します。東北、まるごと全部が博覧会場。「こころをむすび、出会いをつくる。」をテーマに、2013年3月までの開催です。

さあ、復興の光が照らす、東北の新しい旅へ!

大会参加・宿泊・観光のお申込方法について

2通りのお申込方法があります。

申込締切日：10月5日（金）

① インターネットによるお申込 ※推奨いたします

日本交流分析協会のホームページ《<http://www.j-taa.org>》より「年次大会のご案内」⇒「参加登録」とお進みいただき必要な予約を行ってください。大会参加に必要な書類は、費用お支払い後、ご自身のパソコンプリンターでプリントすることができます。

② FAXによるお申込（送信済み申込書は手元に保管ください。）

別紙「FAXによる参加申込書」に必要な事項をきれいに記入の上送信下さい。

FAX送信先：022-265-5765

受付後10日以内に「お申込確認書、請求書（振込先口座案内）」を随時郵送いたします。

宿泊ホテルのご案内

※トップツアー(株)の募集型企画旅行です（添乗員は同行いたしません。最少催行人員1名）

大会参加者用にホテルをご用意いたしました。大会参加申込と併せてお申込ください。

尚、予めご用意した部屋数には限りがございますので、お早めのお申し込みをお勧めいたします。

10月26日（金）・10月27日（土）・10月28日（日）の宿泊をご用意しております。

記号	ホ テ ル 名	旅行代金（1名様）（1泊朝食付・税サ込）		アクセス
		シングル	ツイン	
①	アークホテル仙台 ※大会会場	¥7,350	¥6,500	仙台駅徒歩15分
②	ホテルパールシティ仙台	¥6,500	（設定無し）	仙台駅徒歩12分
③	ホテルモンテエルマーナ仙台	10/27 ¥9,000 10/26・28 ¥7,000	（設定無し）	仙台駅徒歩5分

各ホテルの位置は、下の会場ご案内の地図の記号をご参照ください。

第35回 全国年次大会（東北） 会場ご案内

アークホテル仙台
（旧ワシントンホテル）

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10（青葉通り）
TEL.022-264-2274 FAX.022-222-2797



JR仙台駅2階ペデストリアンデッキより青葉通りを直進、約15分。
（ダイエー仙台店前で地下に入り、5番出口の階段を上がって直進）



JR仙台駅西口のバスターミナル 9番乗り場/宮教大・青葉台行きで約10分。
大町西公園前下車、徒歩約1分。



JR仙台駅西口より 青葉通りを直進。お車で約5分。右手です。
東北自動車道仙台宮城IC.「仙台市街」方面へ。西道路を経由してお車で約10分。

